

知事と区市町村長との意見交換会

令和3年11月9日（火）
15時45分から16時35分

○行政部長 これから意見交換を始めさせていただきます。

本日、市長の皆様には知事との意見交換を行っていただく予定でしたが、既に御案内のとおり、知事は現在静養されながら少しずつオンラインで公務を再開しているところでございます。本日は副知事が承らせていただきます。

それでは初めに副知事から一言、お願いいたします。

○黒沼副知事 副知事の黒沼でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今、行政部長からお話をさせていただきましたが、小池都知事が現在自宅で静養しておりますので、本日私が代理を務めさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

それでは一言、意見交換に先立ちまして御挨拶をさせていただきます。

東京2020大会でございますが、一年間の延期。そして無観客での開催という困難を極める中での開催となりましたが、各市の皆様方の御協力によりまして、成功裏に収めることができました。改めまして深く感謝を申し上げます。

また、長きに渡る新型コロナウイルスとの戦いですが、まさに地域の最前線で市長の皆様が陣頭指揮を取られて戦っていただいております。このことに関しましても、深く御礼を申し上げる次第でございます。

現在、お陰様で新規陽性者数は減少傾向で落ち着いてございますが、やはり基本的な感染防止対策を徹底していく、これは必要でございます。

それと、同時にこの時期だからこそ、今後の備えに十全を期すとともに、経済・社会経済活動を再生・回復の軌道に乗せていく、そのための様々な取組も必要だろうと考えております。

そしてこのコロナ禍を乗り越えた先には、今までのいわゆる2020大会でのレガシーをしっかりと、スポーツだけではなくて都市の資源として定着をさせていく。

そして感染症だけではなくて、様々な複合災害が気候危機とともに複合的な危機として押し寄せておりますが、ここでも危機管理に万全を期す、そしてその先に持続可能な成長につなげていく。東京都ではこれをサステナブル・リカバリーというふうに銘打って、各種の施策を進めているところでございます。

是非これまで以上に皆様方との連携を緊密にしながら、今後の首都東京全体の歩みを共に進めてまいりたいと考えております。

本日は非常に短い時間ではございますが、市長の皆様方の忌憚のない御意見・御要望を賜ればと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○行政部長 それでは青梅市の浜中市長から、御発言をお願いいたします。

○青梅市長 こんにちは。先月23日に開催いたしました青梅市市制施行70周年記念式典

におきましては、都知事より素敵な御言葉をいただきまして、誠にありがとうございました。お陰様で無事に終わることができました。心から感謝申し上げます。

それでは本題に移らせていただきます。一点目は圏央道青梅インターチェンジ周辺地区における物流拠点整備についてであります。

本事業においては職住近接等、本市のまちづくりを進めていく上で重要な事業として位置付けております。

このため、令和3年度から開始されました、市街化区域編入に伴う国と都の農林調整協議も着実に進め、早期の事前調整の終了をお願いするとともに、令和4年度中に区域区分（市街化区域編入）の都市計画決定や、農業振興地域の指定解除の法手続の推進もお願いいたします。

更には青梅インターチェンジへのアクセス道路として、本市と瑞穂町を通過する都市計画道路3・4・13号線の整備計画の推進をお願いいたします。

二点目として、青梅市立総合病院建替えの際の新型コロナウイルス感染症等の新興感染症を踏まえた補助制度の充実についてであります。

青梅市立総合病院は西多摩地域における都立病院の補完的な役割を果たしており、救急救命センター、地域医療、支援病院の承認をはじめ、東京都地域医療構想で西多摩区域における高度急性期及び急性期病床の三分の一を担っています。

しかしながら建物施設は建設から42年が経過し、老朽化に伴い、新たな機能への対応が困難なことから、現在、新病院の建設工事に掛かっております。

このようなことから、これまで現在起債償還に対する補助等の更なる充実や、市町村総合交付金等による財政援助の充実等を要望してまいりましたが、この度、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、新病院建設計画を見直し、新型コロナウイルス感染症等の新興感染症に対応できるよう発熱外来の配置の見直しや、空気循環を意識した空気設備に対する工事内容の変更を進めております。

この見直しにより、設計図面の再作成と追加工事費に多額の費用の増が見込まれるところであります。

そこで新型コロナウイルス感染症等に対応するための施設整備に関する補助制度の創設を要望するものであります。

三点目、青梅駅前地区第一種市街地再開発事業に対する支援についてであります。

青梅駅前地区では老朽化した施設・建築物を新たに更新するため、地権者を中心とした再開発組合が都市再開発法に基づく事業を進めているところであり、本市も補助事業主体として、組合に対して支援をしております。

当該事業に対する補助制度については、国が三分の一、都が六分の一、市は六分の一を基本として、再開発組合に対して交付するものですが、国の社会資本整備総合交付金交付要綱において、条件を満たせば交付金の割増を行うことが可能とされております。

令和4年度における青梅駅前地区の事業は、青梅市中心市街地活性化基本計画に位置付けている事業により、この条件を満たす予定であり、国及び本市においても組合に対し割

増補助を行う予定であります。

この事業は青梅駅前の居住促進、賑わいの創出等、非常に重要な役割を担っている一方で、都心における再開発事業と比較すると、資金計画も厳しい事業であります。

この事業推進のため、国や本市と同様に東京都におかれましても補助率の割増を行っていただきますよう、お願いいたします。

以上三点が今回東京都にお願いさせていただく項目であります。よろしくお願いいたします。以上です。

○**行政部長** どうもありがとうございました。

それでは副知事からお願いいたします。

○**黒沼副知事** 市長、どうもありがとうございました。私の方からは公立病院関係の財政支援のお話と、駅前の再開発について御要望を頂きましたので、お話をさせていただきます。

まずは公立病院への財政支援でございます。都はこれまで新型コロナウイルス感染症の患者を受け入れる医療機関等を支援してまいりました。

まず都では感染症指定医療機関の指定を受けた医療機関が設置する施設の整備費に対しまして、指定を受けた病床数等に応じた補助を行っているところでございます。

また、市町村公立病院整備事業費償還補助といたしまして、感染症部門を除く整備事業費の元利償還に対しまして、補助も行ってございます。

さらに国に対しましては、新型コロナウイルス感染症の医療提供体制を確保するため、医療機関の実情を踏まえた財政支援を講じること。

先ほど市長からは様々な設計変更というようなお話がございまして、それによる費用の増高等のお話がありました。我々としましては、こうした実情を踏まえた財政支援をしてほしいということ、国に対しても提案要求をさせていただきます。今後も引き続き、都として必要な支援を実施してまいりたいと考えております。

続きまして、青梅駅の駅前再開発事業に関しての割増のお話がありました。

今年4月に組合施行による市街地再開発事業を認可した青梅の駅前地区につきましては、都市機能の更新に向けて、早期の事業推進が必要でございます。

青梅市さんで施行する本市街地再開発事業によりまして、老朽化した共同ビルや木造建築物等の敷地の統合を進め、まちの賑わいの形成に資する土地の合理的かつ健全な高度利用と、都市機能の更新を図るものとしてございます。

都では平成31年度から財政的な支援を実施しておりますが、今後も円滑な事業の推進に向けまして、国及び市とも連携を図りながら支援を行ってまいりたいというふうに考えております。

その他の御要望につきましては、総務局長からお答えいたします。

○**総務局長** それでは私の方から青梅インターチェンジ周辺における物流拠点の整備について、お話をさせていただきたいと思っております。

私、総務局長になる前は産業労働局長だったものですから、この件に関する青梅市さん

の強い思いというのはよく存じ上げております。

この物流拠点の整備に向けまして、地元の方々によります区画整理事業に合わせて行う市街化区域への編入、あるいは農業振興地域の見直し、こうしたことにつきましては、都といたしましても青梅市と調整を重ねてきまして、引き続き十分に連携しながらしっかりと支援してまいります。

また、その後の農業振興につきましても、青梅市さん側とともに取り組んでいきたいと、このように考えております。

また、都市計画道路3・4・13号線につきましては、青梅インターチェンジへのアクセス道路として交通の円滑化はもとより、多摩地域の自立性向上や都市間連携の強化を図る上でも重要と認識しております。

引き続き、早期事業化に向けて取り組んでまいりたいと考えております。よろしく願いいたします。

○行政部長 浜中市長、ありがとうございました。

○行政部長 それでは続きまして福生市の加藤市長、御発言をお願いいたします。

○福生市長 福生市の加藤でございます。黒沼副知事、よろしくお願い申し上げます。

私どもでは今回の要望は5つパワーポイントを使ってお話をさせていただきます。

まずは福生駅の西口地区の市街地再開発事業でございます。これは商業のまちとして戦後ずっと発展してきた我が市でございますけれども、なかなか今コロナ禍において、そして西多摩全体で言えますけれども、人口減少の中で非常に商業を危ぶんでいるところでございます。

そういう中で福生駅の西口の再開発を、今計画しております。そして東口も併せて、富士見通りという所がございますけれども、その拡張事業、そして東福生駅の建替えという形でございます。

今現在、都道249号線で、通称西多摩産業道路は延伸工事を都にいただいているわけでございます。都心からどうしても青梅、埼玉、奥多摩の方に行く部分の流れは、幹線道路は非常に充実しているわけでございますけれども、どうしても戦後76年、一緒に共存してきた横田基地があるために、他の自治体との縦の線がなかなか途切れがちでございますので、そこが弱体化になっております。

その部分を含めて、是非西口の再開発、都道から移管してもらって、今市道になるところでございますけれども、その部分に御支援をいただければというふうに思っています。

飲食店もこのコロナ禍の中で随分閉店を余儀なくされておりますので、賑わいの創出の担い手を何とか創出できるよう、市でも頑張っていきたいと思っております。

1枚おめくりください。続きましてコロナ禍での子育て支援でございます。

平成14年、私ども人口6万3,000人弱を頂点にいたしまして、ずっと人口減少が続いているところでございますので、福生市もう総力をあげて子育てするなら福生を合言葉に、子育て世代の流入を図っているところでございます。

お陰様で共働き子育てしやすいまちランキング全国ベスト10に6年連続で入っておりますが、この感染症の不安で令和2年度の出生数が前年度に比べて10%以上落ち込んでいることに、大変驚いているわけでございます。

市でも何とかそういう部分を補完しようと思ひまして、安心して子育てができるよう、子育て動画の作成や保育園の建替え、そして小・中学生の一人1台タブレットによるICT教育の推進等を全国に先駆けて行っておりますので、今後も積極的に子育て支援を充実させていきたいと思ひますので、支援をよろしくお願いいたします。

1枚おめくりください。そして画面にあります、細かい数字で恐縮でございますが、子ども子育て対策、あるいはまちの事業者対策等、83のコロナ対策事業に取り組んできております。

コロナ対策につきましては、やはり様々な財政支援が必要だと考えております。市の課題に対して積極的に対策が図れるように令和2年度の東京都の特別交付金の再交付等、十分な財政支援をお願いしたいと、改めてお願いするところでございます。

そして第5波の際には自宅療養者、私どものまちでも相当に増えております。非常に市

民の生命・財産を守るためには苦慮したところでございますが、これはどこのまちでも要望していると思いますけども、保健所の人員の増員等、是非これからいろいろな御考えを巡っていただければというふうに思っています。

1枚おめくりください。そして3回目の接種が決まり、大急ぎで準備を進めております3回目のブースターショットでございますけども、高齢者の予約の煩雑さを解消できるよう、それぞれの接種日を指定した通知を送る等、円滑に接種ができる方法を検討しております。

そして私ども1回目、2回目の接種を実施いたしまして、高齢者へのタクシー利用助成等をやっておりました。これは実に好評だったんですけども、是非こういう部分も、市でのお金も必要ですけども、是非そういう部分の助成もお願いしたいと思っております。

1枚おめくりください。そして市ではいよいよ来年2月から、住民票等の窓口でクレジットカードや電子マネー等のキャッシュレス決済が可能になるわけでございます。

そして市民の活動を止めないよう、公民館・体育館等の公共施設にWi-Fi環境を整備しており、様々な場面でのICT化を進めております。

議会でもタブレット持ち込みOKという、これからの議会になりますので、こういう部分は非常に、重要だと考えております。

宮坂副知事もおっしゃっているんですけども、なかなかそれをうまく教育していく人材が足りていないということがございますので、是非東京都の方からもそれをお考えいただきまして、人材等を送っていただければというふうなことを思っております。

是非これからいろんな形でデジタル化に向けて一生懸命やりますので、これからも御支援のほど、よろしく申し上げます。福生市からは以上でございます。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは副知事からお願いいたします。

○黒沼副知事 市長、どうもありがとうございます。私からはコロナ関連で様々な御要望・御提言をいただきました。こちらについてお話をさせていただきます。

まず子育て世帯関係でございますけども、コロナ禍で経営が悪化した飲食店等や、不安を感じている子育て世代に対しましては、これまでも様々な支援策を講じてきたところでございます。

財政支援につきましても、新型コロナウイルス感染症対策地方創生臨時交付金等の継続・拡充をはじめとして、全ての自治体に対して確実かつ十分な規模の財政支援を講じるように、一言で申し上げますと、これは国に私も行った時に必ず言っているのですが、コロナ関係は原則として国でやってくれというような、財政支援に関してはですね。これを更に強化するように、国に要望してございます。引き続き必要な支援を、国に対して都としても求めてまいります。

また、保健所の体制について御要望ございました。これまで保健所に対しましては、感染症対策に従事する保健師の増員等を都としても行ってきたところでございますが、今後とも必要な体制を確保して、市町村の皆様からの相談等にも対応してまいりたいと考えて

ございます。

続きましてワクチンの3回目、ブースター接種の関係のお話がありました。

国はもう間もなくでございますが、本年12月からの3回目の接種の開始に向けまして、市区町村の住民が住所地で接種を受けられるような接種体制を確保する。これがまず基本でございます。

その上で都道府県が市区町村を支援するような、広域調整と進捗管理をしっかり行う。こうした役割分担が示されているところでございます。

私も副知事に就任早々、厚生労働省へ行きまして、事務次官と話をしてまいりましたけれども、この役割分担をしっかりと、都も区市町村も堅持しますけれども、まず供給を安定的にさせていただきたい。それから今後の計画についても場当たりで変えるのではなくて、長期的な計画をしっかりと示していただきたい。このようなお話も早速してまいりました。

都は市区町村との意見交換の機会を積極的に設け、ワクチンチーム等の場において議論をしっかりと深めた上で、国の動向や3回目接種の制度の詳細等について、しっかりと認識や情報を皆さんと共有を図ってまいりたいと考えております。

それからワクチン関係の財政措置でございますが、こちらも言わずもがなでございますが、地方負担が生じることがないように、国が全額を負担してほしいということは、重ねて要望しているところでございます。

引き続き市町村の皆様と緊密に連携をしながら、3回目の接種をしっかりと円滑に進めてまいりたいと考えております。是非御協力をよろしくお願いいたします。

その他の御意見・御要望等につきましては、総務局長からお話をさせていただきます。

○総務局長 それでは私の方から、行政のDXの推進についてお話をさせていただきたいと思っております。

福生市のDXの推進について、今、市長からいろいろな場面で取り組んでおられるというお話も伺いました。

その中でもデジタル人材の確保・育成という、これ非常に大きな課題だと思っておりますけれども、自治体のDX推進に資するために、市区町村職員向けの勉強会の開催だとか、都の専門人財による対話形式の技術相談を実施する等、こうした支援を行っているところでございます。

また、デジタル技術の導入支援について、都で取り組んでおりますAIチャットボットやAI-OCR等により得られた知見、ノウハウ等を市町村にも展開していきたいと思っております。

これらの取組につきまして、今年度から開始した東京都区市町村CIOフォーラム等で共有しまして、東京全体のDXを推進してまいりたいと考えております。

更には財政支援につきましても、市町村総合交付金の政策連携枠におきまして、今年度から新たな支援対象に行政のデジタル化、こうしたことを加えたところでございます。

今後とも地域の実情に即した、効果的な支援に努めてまいります。よろしくお願いいたします。

○黒沼副知事 それから冒頭、市長から西口の再開発のお話も頂戴いたしました。

都も所管の局はもとより、総務局もこれまでいろいろ御相談に乗ってきたと思います。引き続き、都としてできる支援等については継続して行ってまいりたいと考えております。よろしく願いいたします。

○行政部長 加藤市長、どうもありがとうございました。

○行政部長 それでは続いて羽村市の橋本市長、御発言をお願いいたします。

○羽村市長 こんにちは。羽村市長の橋本弘山でございます。本年4月に市長に就任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

去る10月31日に挙行いたしました羽村市制施行30周年記念式典に際しましては、小池都知事から御祝いのメッセージを頂戴いたしまして、大変ありがとうございました。改めて御礼を申し上げます。

また、知事をはじめ、東京都の職員の皆様には、日々都民のためにコロナ対策に全力を尽くしていただいておりますこと、重ねて感謝申し上げます。

さて、まずはコロナ後を展望した地域や東京の未来を切り拓くに当たっての各区市町村の強みや戦略についてということで、羽村市の強みや戦略について申し上げます。

羽村市はこれまで土地区画整理事業を基軸に、工場誘致に取り組む中で職住近接のまちづくりを進めてまいりました。

市内には日野自動車羽村工場、カシオ計算機羽村技術センター等の大手企業が立地しており、最近ではニプロ株式会社が操業を開始いたしました。

一事業所あたりの製造出荷額を見ますと、平成30年の実績ですが、約112億円で、多摩地域で最も高い出荷額となっております。

この他にも様々な業種の中小製造業が市内に集積しており、事業者同士が連携することで市内の活力となり、税収面をはじめ、市の発展の基盤となっていることが市の強みであります。

また、市政世論調査等における市民の継続居住意向は9割を超えており、暮らしやすいまちであるという市民の皆さんからの評価も、市の強みの一つであると思っております。

現在、令和4年度から10年間のまちづくりの指針として、第六次羽村市長期総合計画の策定に取り組んでおります。

計画においてはまちの将来像を、「まちに広がる笑顔と活気 もっと！暮らしやすいまちはむら」と定め、将来像の実現に向けたまちづくりの方向性として、「スマートにくらす」、「にぎわいを創る」、「くらしを守る」等の5つのコンセプトを掲げ、コンセプト毎に各種の施策を展開してまいります。

その中でも特に市の強みを活かすための産業振興と市民の生命を守る防災・災害対策について、一層の充実・強化を図っていきたくと考えております。

市民の笑顔と活気が溢れ、「もっと！暮らしやすい 羽村市」を実現していくために、財政的な支援をはじめとした東京都のバックアップをお願い申し上げます。

「未来の東京」戦略、新しい多摩の振興プラン等の推進に向けた都の施策や、来年度予算に関する意見・提言等についてということで、先端技術等の開発拠点の形成について申し上げます。

「未来の東京」戦略ではイノベーションの創出拠点の形成を目指し、都有地の活用や創薬・医療分野のイノベーションの活性化、実証の場の提供と支援拠点の整備に取り組むこと、また、先端技術を取り入れたまちづくりにより、新しい日常にふさわしい職住近接で

快適な生活を実現することが掲げられております。

これらの方向性は羽村市がこれまで取り組んできたまちづくりの考え方と同一の基調に立つものであり、現在、市で策定を進めております、第六次長期総合計画においても先端技術等の開発拠点の形成を目指すことを掲げており、まさに東京都と同じ戦略を描いております。

ニプロ株式会社の市内進出を契機に、医療分野での事業者間連携や創業の促進等により、新たな価値を創出すること。また、新しい日常に対応するテレワークやサテライトオフィス等の充実を図ることに取り組んでいきたいと考えております。

また現在、市内の産業の拠点として運営している羽村市産業福祉センターは、かつての東京都の勤労福祉会館を譲り受け、建物を市が改修して運営しておりますが、土地は今も東京都から無償でお借りしている状況であります。

この産業福祉センターを創業支援や企業間の連携促進の場として、イノベーションやスタートアップの拠点として充実したいと考えておりますので、東京都におかれましても「未来の東京」戦略に沿って、積極的に施策展開を図っていただければと思っております。

また、市の産業振興施策や市内における先端技術等の開発拠点の形成に関しまして、東京都の技術的なアドバイス、又は財政的な支援をお願い申し上げます。

防災対策の強化に関して、申し上げます。

「未来の東京」戦略では台風・豪雨へのハード・ソフトの備えを更に高めることや、無電柱化を推進し、災害に強い、強靱な都市にすること、また、多摩島しょの防災力向上が掲げられています。

住民に最も身近な自治体として、住民の生命・財産を守るため、防災・災害対策は最も重要な取組の一つであります。

市では第六次長期総合計画において、災害に強いまちを目指すこととしており、災害時に市民が安全に避難できるよう、ICTを活用して災害情報や避難者情報を適切に提供・伝達することや、市道や駅周辺の無電柱化等の取組を推進していきたいと考えております。

また、豪雨時には多摩川の溢水・越水による浸水被害もあり得るため、堤防の延伸や強化、溢水時の排水対策等に取り組む必要があります。

堤防の延伸や強化に関しては、引き続き、国へ要望を行っていく必要がありますことから、東京都のバックアップをお願いしたいと存じます。

防災・災害対策に関しましては、大変重要な取組でありますので、東京都の技術やノウハウの提供、また職員の派遣や財政的な支援をお願いできればと考えております。

以上、様々な意見や要望を述べさせていただきましたが、コロナ後の新たな日常を見据え、新しい時代の羽村市を東京都や都内自治体の皆様と共に作ってまいりたいと考えておりますので、引き続き御指導・御鞭撻のほど、よろしくようお願い申し上げます。

以上で発言を終わります。ありがとうございました。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは副知事からお願いいたします。

○黒沼副知事 市長、どうもありがとうございます。羽村市さんの様々な強み、それから産業振興施策についてお話を伺いました。私の方からはそうした産業振興施策等につきまして、お話をさせていただきます。

まず創薬・医療分野のイノベーションの活性化でございます。企業・大学等とともに取り組むベンチャーの創出・成長を促進していく必要がございます。

都ではベンチャーの育成支援や、大学と連携した人材育成等を通じまして、新たな製品・サービスが生み出される環境づくり、こちらに取り組んでいるところでございます。

また、都では経営支援や技術支援を行う産業サポートスクエア・TAMA や、創業支援の拠点である Tokyo 創業ステーション TAMA 等を整備してまいりました。

今、市長からも御紹介をいただきました、羽村市さんの産業福祉センター、創業支援や企業間連携促進の場と位置付けられて、縷々、羽村市さんの方から様々な取組をされているというお話がございましたが、こうした場所で育成されたスタートアップ企業に対しても、都のこういった産業サポートスクエア・TAMA であるとか、創業ステーション TAMA、こういった施設も是非御活用をいただきたいと考えております。

今後とも東京都と市でしっかりと連携をして、多摩地域、極めてポテンシャルの高いこの多摩地域における産業の活性化を共に図ってまいりたいと考えております。よろしくお願いたします。

防災関係につきましては、総務局長の方からお話をさせていただきます。

○総務局長 それでは私の方から防災対策に関係したお話をさせていただきます。

防災対策の強化につきましては、近年の災害の教訓だとか感染症との複合災害、こうした観点も踏まえまして、昨年度末に東京防災プラン 2021 を策定いたしまして、防災対策を着実に進めることとしております。

お話にございました無電柱化の推進につきましては、既存道路の無電柱化に新たに取り組む市区町村に対しまして、無電柱化チャレンジ支援事業制度等の財政支援や、技術研修会の開催等の支援を行っているところでございます。

また、多摩川の浸水対策につきましては、国が多摩川緊急治水対策プロジェクトによって堤防整備等を進めるとともに、河川整備計画の変更に向けた検討を実施しているところでございます。

都は治水対策の着実な推進等について、国に働きかけてまいりたいと考えております。

避難所の感染症対策物資に係る財政支援や、大型台風接近時に都の情報連絡要員を市区町村へ派遣する、こういった人的支援も行っておりまして、今後とも市区町村の独自の取組も支援しながら、安全・安心な東京を市と一緒に作り上げていきたい、こういうように考えておりますので、よろしくお願申し上げます。

○羽村市長 ありがとうございます。

○行政部長 橋本市長、ありがとうございます。

○行政部長 それでは続いてあきる野市、村木市長、御発言をお願いいたします。

○あきる野市長 あきる野市長の村木英幸でございます。

本日は東京や本市の未来を切り拓く取組として、公共交通の充実とマイクロツーリズムの推進の二点について、申し上げます。よろしくお願いいたします。

資料の1ページ目を御覧ください。全国的な傾向と同様に本市においても人口減少、高齢化の進行、高齢者の免許返納等により、公共交通の推進が重要となってきております。

資料のとおり、本市では鉄道駅やバス停から一定以上の距離がある地域である、公共交通空白地域が一定程度存在をしております。

ページをおめくりください。市では空白地域のうち、一定の範囲と集落が存在する4箇所を公共交通優先検討区域と位置付け、公共交通対策を優先的に進めることにしており、これらの区域に適した交通手段を探るため、公共交通実証実験等に取り組んでまいりました。

ページをおめくりください。実証実験の実施状況として、令和元年度では深沢区域でタクシー補助の実証実験を、令和2年度では草花折立区域で定時定路線型交通の実証実験を実施するとともに、アンケート調査を行い、今後の公共交通対策の基礎資料を得ております。

ページをおめくりください。これを踏まえ、今後はコミュニティバスの増発・増便と、デマンド交通の導入に取り組み、公共交通対策を更に推進してまいります。

「未来の東京」戦略、新しい多摩の振興プランでは、地域公共交通の充実、デマンド交通等の導入促進の支援に取り組むことが示されておりますので、本市の取組を事例の一つとして活用いただくとともに、各自治体による地域公共交通対策への技術的・財政的な支援、行政区域を超えた公共交通の導入に関するリーダーシップの発揮等をお願いいたします。

続きましてマイクロツーリズムの推進であります。こちらの資料はございません。本市は都心部からそう遠くない距離にありながら、恵まれた自然環境と豊富な地域資源を有しており、多くの観光客が訪れております。

市ではアフターコロナやマイクロツーリズムに着目した取組を進めておりますが、都におきましても、入込観光客数の減少に伴う事業者等の減収補填等の支援について、格段の配慮をお願いいたします。

また、新しい多摩の振興プランでは、アニメ等のコンテンツを活用した誘客促進の考えが示されております。

今後におけるロケツーリズム等も含むメディアミックス戦略への取組に期待しているところですが、本市におきましてもシティプロモーションの一貫として、テレビや映画等の撮影支援には力を注いでおります。

一方、権利の問題等から、支援の実績を市の観光に活かさきれていないという課題を抱えておりますので、都内におけるロケツーリズムの推進を図るためにも、本件に取り組む市町村への支援をお願いいたします。

先に述べましたように、市では市の魅力・強みである観光資源を活かした地域活性化に尽力しておりますが、観光資源の開発や保全、観光客等の受入環境の整備には、地域人材の発掘や育成・施設等、ハード面の整備等に時間と費用を要するものが多いことがネックとなっております。

これらの諸事情を踏まえて、本市において都民や国内外の旅行者を魅了し続けることができる持続可能な観光振興が図れるよう、今後も特段の支援をお願い申し上げます。

本市が持続的に発展できるよう、知事をはじめ、東京都各部局の皆様から御支援を賜りますようお願いいたしまして、結びとさせていただきます。ありがとうございました。

○行政部長 どうもありがとうございました。

それでは副知事からお願いいたします。

○黒沼副知事 市長、どうもありがとうございました。私の方からは二つのお話のうちの一つ目、地域の公共交通の充実について様々なお話を頂戴いたしましたので、この件に関しましてお話をさせていただきます。

高齢者をはじめ、誰もが移動しやすい利便性の高い都市を実現していくため、都ではコミュニティバス、あるいはデマンド交通の導入促進に取り組む市区町村に対する支援を実施しております。

あきる野市さんにおかれましても御紹介いただきましたとおり、令和2年度から行っている定時定路線型交通の実証実験につきまして、都のこの支援制度を御活用いただいております。

この実証実験で得られたデータ・知見につきましては、他の市区町村の施策の検討にも資するよう、まさに横展開できるよう、情報提供や意見交換を行わせていただいております。

また、都は現在、有識者等とともに地域公共交通の在り方を検討する中で、地域公共交通の目指すべき今後の姿や、市区町村の区域を超える路線の在り方等、広域的な視点からの検討も行ってございます。

今後とも市区町村の主体的な取組を支援しまして、地域公共交通の充実をともに図ってまいりたいと考えております。

もう一点の御要望につきましては、総務局長からお話をさせていただきます。

○総務局長 それでは観光振興について、お話をさせていただきます。

豊かな自然に恵まれた多摩地域におきましては、観光産業は地域経済を支える重要な産業であると、このように認識しているところでございます。

都といたしましても、身近な旅行の需要回復を目的に、宿泊施設による周辺の観光施設等を活用したマイクロツーリズムのプラン作り、こうしたことを支援するとともに、域内観光ルートの開発に近隣県とも共同で取り組んでいるところでございます。

また、地域の魅力を発信する他、地域ゆかりのキャラクターを用いたマンホールの制作等、アニメ等のコンテンツを活用した誘客の取組や秋川溪谷の観光ルート等、受入面の整備も支援しているところでございます。

引き続き、観光振興と地域の活性化に向けた支援を行ってまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

○**行政部長** 市長の皆様、様々な御意見・御提言いただきまして、どうもありがとうございました。

それでは最後に副知事からお願いいたします。

○**黒沼副知事** 本日は市長の皆様、大変ありがとうございました。貴重な現場の声・実情、更には様々取り組まれている果敢な施策等につきまして、貴重な意見交換を行わせていただきました。

本日お伺いしました御意見・御要望は、私から責任を持って小池知事に伝えさせていただきます。

今回の御意見・御要望も踏まえまして、東京の未来の姿、「未来の東京」戦略の推進、そして多摩の今後の姿、私も学生時代もそうですし、行政部在職中もそうだったんですが、西多摩には本当に何度も行かせていただきまして、西多摩のそのポテンシャルというのは当時も高かったですが、今まさに様々な、このコロナ禍を契機としてむしろ新たな強みが出てきているのではないかなと、ワーケーションや様々な取組然りでございます。

その取組を進めていくためには、東京都だけではとてもできませんので、是非、市長の皆様がリーダーシップを発揮していただいて、市と東京都と一緒に進んでいく、このことが不可欠であると、本日の意見交換を通じて確信させていただきました。

この国難とも言えるコロナ禍の先には、新たな日常と新たな多摩の発展があるというふうに考えております。

是非引き続き緊密に連携・協力をお願いいたしまして、私の締め挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

○**発言者不明** ありがとうございました。

○**行政部長** それでは以上で終了いたします。本日は御多用のところ、どうもありがとうございました。